

第2回宗像市小中一貫教育推進協議会 会議録

日 時	平成25年9月3日(火)午前10時00分から午前11時55分まで
場 所	宗像市役所北館1階 103B会議室
出席者	<p>【委員】 石丸哲史、前田誠、中村淑恵、船越美知、脇田哲郎、井ノ口真一、 水田尚文、中村藤恵、武内勉、木村秀子 ※欠席委員…池田隆</p> <p>【事務局】 教育部理事 後藤正弘、教育部長 高橋勇次、 教育政策課長 岡田光晴、教育政策課指導主事 羽田野崇、 教育政策課指導主事 西島潔、教育政策課指導主事 正路澄代、 教育政策課政策係長 許斐知加</p> <p style="text-align: right;">(敬称略)</p>

1 開会挨拶 会長挨拶

2 日程説明 事務局 岡田教育政策課長が日程説明(資料1)

3 前回の会議録の確認 承認(資料2)

4 協議 今後の小中一貫教育「基本方針骨子」について(資料3)

○事前送付資料の内容説明 事務局 西島指導主事、羽田野指導主事から説明

○内容についての協議…第2章と第3章に分けて議論を行う。

◆第2章 小中一貫教育の理念について

・自立とかかわりの「かかわり」とは具体的にはどのようなことをいうのか。

→自他のよさを認めて助け合っていく「生きていく力」のことである。友だちとの関わり、地域との関わりなど、人間関係を育ていく大事な部分と捉えている。

◆第3章 小中一貫教育 第Ⅱ期の基本方針の骨子について

(1)目標、めざす児童生徒像について

・学力についての成果目標について、全国平均よりも総合で5ポイント以上とあるが、4分野の合計で5ポイントと考えていいのか。

→国語、算数(数学)という教科の枠組みで考えている。

・それぞれで5ポイント以上を目指すということか。そういう意味での総合という意味なら表現が分かりにくい。

・ポイントがそれぞれ5、5、6、4ポイントならば、おしなべて5ポイントであると捉えてよいのか。

→現段階では全てをまとめてではなく、小学校の国語と算数、中学校の国語と数学という教科毎に考えてい

る。それぞれの教科が知識と活用に分かれているが、教科を括って考えている。

- ・教科ごとに5ポイントとした方が分かりやすいのではないか。
- ・数値の設定については分かりやすく、合理的にお願いしたい。

→総合の中身を再検討したい。

・この場合の学力はどのようなことを学力とするのか。今問題とされているのは、一方的に受ける授業、1たす1は2という答えが求められていた部分。ここでいう学力は、今現場で課題とされている創造力や発想力も測る内容になっているのか。

→基本的な立場として、目に見えにくい部分も含めて学力と捉えている。その一方で、どこで測るかというところ、ある程度数値化できる部分をベースにしたいと考えている。

・めざす児童生徒像を読ませていただいて、自立して学ぶということ、他者とかかわろうとするところは重要な目標だと思うが、「自発性」という文言を入れていただけると分かりやすいのでは。自信を持って発信する力は自尊心につながっていくと思うので、学習の中でもそういうところを引き出していきたい。

・事務局に対する質疑だけでなく、本日は委員同士の意見交換もやっていただきたい。

・前は、これから宗像市の子どもたちにどのような力をつけていってほしいかという立場で発言したが、「自立し、かかわりを深める子どもたち」という表現は端的で分かりやすい。自発は大切な視点だが、自立の中身に入ってくると考えられるので、目標とする理念等は言葉が多くない方が分かりやすいと思う。それらの中身を具体的に整理する必要があると考える。

・骨子の中の姿については、できるだけ簡潔にということで、自発性については、具体的に中身で反映させていただくということでしょうか。

・かかわりという点で、地域とのかかわりも含まれているという事務局の回答だったが、こちらのめざす児童生徒像のかかわりのところに具体化している力は、学校の中のこと、友だち関係と受け取れる。地域を愛する子どもを育てるというのをキーワードにしてやっていくのであれば、「地域の良さを知る」や「地域に積極的に関わる」というような文言を盛り込んだ方がよいのではないかと考える。理念は簡潔な表現の方が良いと思うので、具体像の中で触れていただけたらと思う。後段を見ても地域性がでてこない、学校の中が強調されたものになっているので修正が必要だと考える。成果指標の「学校生活が楽しいと言える児童生徒90%を目指す」とあるが、学習意識調査は、低学年は2段階、3年生以上は4段階で評価している。どちらかといえば楽しいという回答も含めた数値であるならば、現状で90%に近い数値が出ているので、目標として90という数字は低いと思う。

・第Ⅱ期の目玉として「かかわり」を銘打っている以上は、学校に限定されるものではなく、地域の方々を含めた世代を超えたさまざまな集団とのかかわりであるべき。記述について検討する必要がある。目指す方向性なのでいたずらに長く書き連ねるのはいかがかと思うが、検討をお願いしたい。

(2)「めざす学校像」「めざす家庭像」「めざす地域像」について

・非常に簡潔で良いと思う。地域、家庭が意識して明確に打ち出されている。一番肝心なのは学校と協働してということだと思う。協働体制をとる方法論について、後半部分でほとんど触れられていない。そこを踏まえて後の方でも検討していただきたい。なかなかそこがときほぐれない部分。(水田)

・めざす家庭や地域の中で、子ども基本条例との関係はどうなっているのか。(木村)

→教育委員会は子ども部と連携しながら各種事業を行っている。後にでてくるが、保幼小の連携など、今後も連携を密にして進めていく。

・共通の教育目標とあるが、学校の教育目標は、国の教育の動向や法令、市の施策と地域の実態を含めて学校が設定してきた。それを共通の教育目標にするということは、いくつかの学校で同じ目標を作るということだが、果たして大丈夫なのか。子どもや地域の実態、地域性、子どもを育てる環境を踏まえて、この8年間の検証の中で、共通の目標を設定しても良いと判断したのか。この審議会を初めて立ち上げて協議した際に、ある校長から130年続いてきた学校と30年の学校が共通の教育目標を立てて本当に良いのかという質問がなされた。非常に深い意味があると思う。

→現状では、小中学校の9カ年で子どもを育てていこうということで、中学校区で共通目標を立てて取組みを行っており、この8年間で順調に進んでいると認識している。今後も、共通の目標に向かって取り組んでいただきたいと思っている。

→中学校区で地域性がかなり異なっている。地域性や子どもの実態を考えたときに、同じ子どもが中学校にあがっていくので、やはり中学校区単位で共通の目標を見据えて、子どもたちを継続して見守り育ててほしい。共通の目標設定には意味があるし、成果もあがっているのではないかと。

・100年の目標を貫いている学校が地域にあわせた目標に変えるのは、抵抗があるのでないか。

・めざす地域像、家庭像の主体はどこなのか。主語が分からない。それぞれの具体的な目標や活動を考える際には、「〇〇はこれに基づいて考えてください」となる。19ページには、家庭・地域コミュニティとの協働で推進校として実施する事項などが書かれている。学校としてこれだけのことを実施するということになるので、めざす地域像とめざす家庭像の文言は、学校が主語となるように書き換える必要があるのではないかと。14ページを見ると学校ではなく別の部分が主語となるように受け取れるが、19ページとの整合性からいうとどうなるのか。

・別の言い方をすると、学校像と教師像であれば子ども学校が責任を持って育てていくが、地域像となるとどうすればよいのか。引っかかっているのはその部分ではないか。

・確かに主体を誰にするのかが問題。地域としては、目標が出ればそれに向けた事業等があるかと思う。漠然として誰がどうするのかというところ、主体を誰にするということが大切だと思う。

・早晚このような流れになると思うが、今一部の地域で取り組まれているコミュニティスクールの概念、地域とともに歩む学校という視点で、学校が単体で頑張るのではなく地域が総合的にバックアップしなければならないということからすると、目標を共有する、同じ目標に向かうというのは、宗像市として進むべき方向だと考える。共通の教育目標や重点目標として出てくると、言葉が具体的すぎて、ガチガチになってしまう気がする。文章的にはこなれていない部分はあるが、「中学校が目指す共通の教育に関わる目標」という程度に表現をやわらかくするというのはいかがか。

→子どもをそれぞれの立場でどのような方向性を持って育てていくのかを考えたときに、ひとつの指針になるのが、それぞれの共通の教育目標、重点目標になるのではないかと考えた。中学校区としてこうしたいと考えているのを、家庭や地域を意識していただきたいという意味合いで入れている。ここでの書きぶりや内容の変更は全く問題ない。

・中学校区で共通の目標に向かって進んでいかなければならないが、それぞれの学校の個性を埋没させたり否定したりするものではないということ、ここでは確認させていただく。内容としては、よりこなれた表現にしてい

ただきたい。

- ・指標の90%という数字自体の妥当性についてどう思うか。
 - ・現状では、小学校では90%まではいかない数値だったと記憶している。小学校のレベルでいうと、学校が好きというのは根幹に関わる部分なので、90よりもっとあげてよいのではないかと思う。
 - ・中学校で90%は高すぎるのではないか。
- あまりに高い数値というのは目標としてふさわしいとはいえ、少し手をのばせば届く数値として90%をお示ししている。現状の数値に関する資料を次回の会議で提示することは可能。
- ・次回、90%が妥当であると示す資料を提供いただきたい。

(3)小中一貫教育推進校及び小中一貫教育第Ⅱ期研究校における教育活動について

- ・学園長について、統括者がいることは非常に良いことだと思うが、他校との関わりというか、前回のお話では中学校長をあてるということだった。現状の体制の中で、中学校の校長先生をそのまま学園長という位置づけで進めていくのか、もしくは体制を変えることを考えているのかを確認したい。(水田委員)
- 前回いただいたご意見を踏まえて、中学校長に限らず、中学校区の中でどなたか校長先生になっていただきたいと考えている。子どもたちが日常的に目に見える部分などもあるかと思うが、足りない部分は連絡を取り合って補っていただきながら、子どもに関する情報を共有しつつ全体を見渡していただきたい。
- ・ひとつは権限だと思う。揃えていくというところで、リーダーシップをとっていただく方なので、それがずっと通る体制であればよいが、学校間で溝ができた場合に形の上なのかなと感じる。従来型が崩れていくのか。法律的に可能かどうかは分からないが、人事的に少し変えていくという方法もあるのではないか。学園長を1人置いて各校長を配置するというのも、ひとつの方法として考えられるのでは。統括者が各学校を頻繁に見てまわることがなければ、課題も解決していかない。今後進めていくというのであれば、本当に統括できる学園長の配置が大事なのではないか。
 - ・学園長が統括するというのは具体的にどのようなことか。
- 現段階でいくと事務局校は各校で持ちまわりとなっている。事務的なものについては当該校で進めていると思うが、学園長を置いた場合、学園長の意向や全体を見ての判断は尊重してもらえないのではないかと考える。それぞれの学校の状況や事情がある中で、意見がまとまらない場合も想定される。その際に、方向性を指し示す、全体のまとめ役として機能していただけるのではないかと思う。
- ・トップマネジメントではなく、コーディネート役と考えるのか。
- 先導役、全体をひとつの方向に進めていく立場と考えている。
- ・施設一体型の場合は、学園長が一人いて小中学校それぞれに副校長が配置されるが、宗像市の場合は、空間的に離れている学校が多い中で、学園長の役割について意見を交わす必要があると思う。
 - ・玄海中学校と玄海小学校の施設が一体となった。同じ中学校区の玄海東小学校で校長をしているが、玄海小学校と玄海中学校の子どもたちを見たときに、施設が一体になり、もっと交流ができるだろうと思う。このような状況なら学園長がいても構わないが、エリアが広くなったときに学園長がどんな動きをするのか考えると、輪番制で事務局校を務めている現在の状況と変わらないのであれば、今のままでもよいのではないかと思う。学園名については、現在はつけてもつけなくてもよいとなっているが、もっと強く言ってもよいと考える。

・統括するために学園長となると学園長は責任が重い。学園長が中学校長ばかりになると、学園長連絡会は中学校校長会となんら変わらない。

・2年ごとに事務局校をまわしているが、事務局校になった校長はしっかり意識をもって3校を回して下さっているので現状でよいと思う。

・確かに事務局がないとやっていけない。その中で長という役割、統括という言葉は当てはまらない部分があるが、別の文言でコーディネーター役としての学園長を考えるとどうなるか。学校が離れていると、調整連絡の役割が必ず必要であり、それが事務局校というならばそれでよいかもしれないが、を学園長という形で位置づけることも否定できない部分もあると思う。そのような意味で学園長をとらえるとするならばどのように思うか議論いただきたい。

→小中一貫教育に携わった小学校の教員として、隣の小学校のことをよく知らないという実態があった。中学校区の小学校を一番良く知っているのは中学校だと思う。小学校の子どもたちからすれば、中学校の先輩は憧れの存在で、それを統括する中学校長は神のような存在。学園長として居ていただくだけで一体感が生まれるのではないか。

・一体感というのが重要な目的だと思う。統括という表現ではなく、類似した言葉で学園長という位置づけをしていただくというのはどうか。次回提示していただきたい。

・18ページ(5)に教育区分として前期、中期、後期とある。これまでも中期の取組みが大事という認識で、ある程度焦点を絞って取組んでいたが、もう一度足元を見直して、前期を見直すことが必要ではないかと思う。

→前期は非常に重要な時期。前期で学び方、学習規律が身につけていないと中期からの学習がうまく成立しない。今のところ、前期における学び方や学習規律の徹底がなされていると思うので、引き続き取り組んでいただきたい。

・5年間兼務教員をした。5年生をもったときに、前期の大切さを身近に感じた。4年間をかけてこのように育てようという目標を掲げて、そのために何をしていたらよいのかも含めて、全市をあげて打ち出していてもよいのではないかとと思う。

→14ページに自立とかかわりに焦点化されてはいるものの、前期、中期、後期を分けてお示している。学習規律も含めて発信していきながら、学校ごとに異なる部分もあると思うので、このあたりをベースにしながら中学校区で作りあげ徹底していただきたい。

・前期、中期、後期というものはあるようでない。前期でどのくらいの子どもたちを育てるのかという意識が教員の中になかなかない。小学低学年の指導がずっと中学校までつながっているので、小学校の指導が大事。そういったことから、前期の子どもたちが、どういった学びができるか、どういう人との関わりができるのかなど、明確にすることによって、学校の子どもたちへの教育が、前期、中期、後期を色濃く意識したものになっていくのではないか。ここを意識した第2期の小中一貫教育になっていくと特色が図られると思う。

・発達段階を見据えた3段階であるという認識のもとで教育課程を作っていく。内容としてどのように書き込んでいくかだと思う。

・一番期待しているのは小学校の教科担任制。小中一貫教育を重点化するのに、システムを変えて取り組んでいくことが大きい。教師の意識改革として具体的なものではないか。施設一体型とそうではない部分もあるが、一部で本当によいのか。もう少し力を入れてやれば教員の意識も変わるのではないか。小学校には空き時間

がないので、中学校に手伝いに行くのは難しい。中学校が本気になってやるべきだと思う。一部では本気じゃない。

→一部教科担任制は、教科の専門的な研究というねらいもあるが、実は学級経営という側面もある。いろんな先生がいろいろな角度で子どもたちを見るという点でかなり効果がある。高学年に別の学級の先生が入ったり、中学校の兼務教員に入ったりしていただく。まだ幼さが残っているので、すべてではなく、一部の教科を担任制にするということで効果があがっていると思う。

・小学校5、6年には中学校の指導が入るのがよいと思う。外の風が入るのがよい。小学校の先生に空き時間を確保してほしい。意識が変わるし、やる気もでると思う。中学校の先生も小学校に行ってほしい。実際に行ってみないと分からないし勉強になる。制約があるとは思いますが、これを充実させることでいろいろな問題解決につながると思う。

・中期に強調していただきたいところ。単学級の学校などの実情もあると思うが、できるだけ努力するということがよろしいか。

・宗像市はコミュニティと市民活動団体を両輪としてまちづくりを行っている。市民活動団体の位置づけを文言の中に追加してほしい。最近は発達障害支援、不登校支援、親子の居場所づくりに頑張っている NPO がある。非常に熱心に研究したり講座を開いたりしている。現場の生の声をたくさんもっているし、子どもたちの状況がストレートにわかってくる。連携機関の中に市民活動団体を入れていただけるとありがたい。

→検討して次回提示させていただきたい。

・すでにいろいろな市民団体が学校と連携して教育活動を行っている。コミュニティでも寺小屋の活動に取り組んでいるところがある。吉武地区や岬地区では、市民団体、NPOが主体となって地域の子どもは地域でということを進めている。そのような団体とも連携して良い関係が築けていったらと思う。

・19ページの推進校として実施する事項の最後のところに、「学習活動に保護者を含めた地域人材を活用し」とあるが、例えば「学習活動に保護者や市民団体等を含めた地域人材を活用し」という表現に変えると良いのではないか。

・19ページの上の説明文中の関係機関に市民団体を入れていただきたい。

・評価は大事。90%以上をめざすという話もあった。これは年に一度行っている調査結果だと思うが変わることもある。子どもの状況を的確に把握して、学校がどう取り組んでいるかが大事。数字も大事だが、90%以上をめざす中で学校がどのように取り組んでいるかを評価できる方がよい。

・全体的な評価で、さまざまな指標を用いていくのがよいのではないか。

(4)全体を通しての意見

・18ページにICT 機器の活用とあるが、普及状況を教えてほしい。

→平成24年度に6校、25年度に10校、26年度に6校で全小中学校に導入になる。

・ICTについては、ラインなどでのいじめなどを含めているいろいろな問題になっている。早く慣れることもあるが、モラル面が大きい。早く取り組ませて良い面も悪い面もあるということを教えることが必要。機材を入れるだけでなく、学習の中でどのように使うのが大事である。

→各学校においても、規範教育の一環で情報モラルについても学習しているので、いただいた意見を踏まえて

今後もより充実させていきたい。

・一部教科担任制を小学校高学年から実施しているが、保護者の立場として、小学校の3、4年生で最初の反抗期がきて、担任と子どもが合わないという話をよく耳にする。先ほどいろんな先生の目を入れるという話があったが、できれば3、4年生から一部教科担任制を入れていただければと思う。

→実際に取り入れて成果をあげている学校もあるので、今後取組みを進めていきたい。

・これに出してしまえば、学校はこうしなければならないと規定されてしまうのか。それとも学校が選択してやっていくものなのか。表現の仕方が非常に問題。学校は今までの流れの中で工夫改善をすればよいなどということが分かるが、これを保護者が見たときに、自分のところでもそのような環境を提供してほしいとおっしゃるのは当然だと思う。そういう誤解が生まれないような表現の仕方が必要だと思う。

・大島中学校校区は、施設も一体型で小学校でも前期から一部教科担任制も取り入れているので、他の校区とは違うが、地域とのかかわりでいえば、小中学生も地域にとって重要な担い手と認識しているため、ありとあらゆる行事に小中学生が参加している。小規模なのでできているのかもしれないが、全体的に地域とのかかわりについて非常に良い取組みができていますので、良い面については全市に浸透していけばよいと思う。

・前回の会議で成果と課題で出された中1ギャップや不登校の問題について、議論したり深めたりするチャンスは今後あるのか。

・教育における今日的課題の背景の下で、このような動きがある。それに向かって具体化して実行に移そうとしており、第Ⅰ期で取り組んで、今回さらに第Ⅱ期として深めていこうとしている。中1ギャップそのものに関しては、また別の機会に考えていくものであろう。

5 閉会挨拶 会長挨拶

6 諸連絡 事務局 岡田教育政策課長が次回の会議について確認

第3回協議会：平成25年10月7日(月)午後6時～

宗像市役所北館1階 103B会議室にて開催

